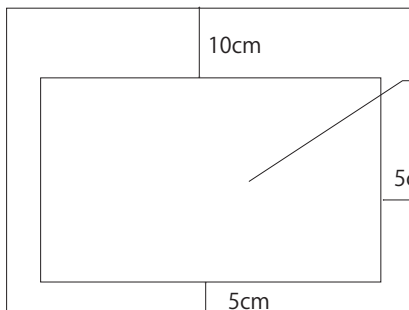
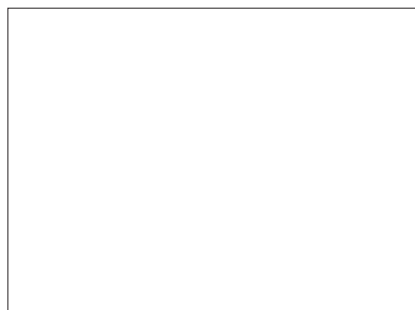


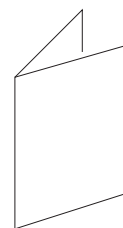
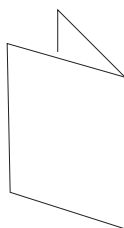
“きりこ” の作り方

- 1 材料の白い和紙の外側は白いがくぶちだと考えてください。
つるすときにひもにつけるので、上は 10cm のはばをとり、横と下は 5cm のわくをとります。



このわくの中に絵がらを考えます。

- 2 材料の白い和紙を二つおりにします。
開くと左右対称になります。
えんぎのいいものをえがきましょう。



- 3 左は「松月館」という旅館のためのものようです。
えんぎのいい松、中央に満月、昔、船着き場が
目の前にあったという話から船と波をデザイン
しました。

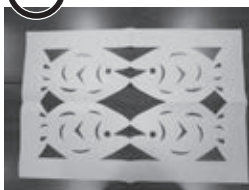
右はのり屋さんの焼きのりのふくろにえがいてある「のり太郎」をデザインしました。龍の
背中にのり太郎がまたがっています。
いずれも外側のがくぶちの部分から切り離されず、
絵同士がしっかりとつながるように、切りぬく部
分を考えてください。



- 4 できれば紙を 2 枚重ねにして、一度に 2 枚切り
ぬいてください。黒くぬりつぶしている部分を
切りぬき、それぞれを開くと右のようなもよう
になります。



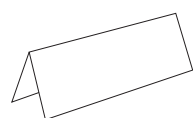
注意



「木」の上の三角の部分がべろりとたれ下がってしまう。つなぎを入れないと形をたもてない。



細すぎて、屋外での展示に弱い。わくの部分としっかりとつながっており、大きく切りぬかれている部分が少ない方が丈夫でよい。



別方向から二つおりにしても OK です。



形を線で描くのではなく、紙の面で残すように切りぬくのが“きりこ”流。その方が丈夫で美しい。